

# 平成29年度全国学力学習状況調査分析

平成 29 年 8 月

三島市立中郷西中学校 学習指導部

## 1 平均正答率

国語A(基礎): 県平均や全国平均より高い

中郷西中学校 > 県 > 全国

国語B(応用): 県平均や全国平均より高い

中郷西中学校 > 県 > 全国

数学A(基礎): 県平均、全国平均よりかなり高い

中郷西中学校 >> 県 > 全国

数学B(応用): 県平均、全国平均よりかなり高い

中郷西中学校 >> 県 > 全国

## 2 各設問毎の正答率グラフとそれからわかる特徴

### 国語Aの特徴

#### ○全体的な傾向

「話す・聞く能力」や「書く能力」、「言語についての知識・理解・技能」は、県平均・全国平均より高い。「読む能力」は県平均よりやや低いが、全国平均より高い。

また、「楷書と行書との違いを理解する」問題の正答率が低く、書写に関する課題が明らかになった。

#### ・正答率が高い項目

- 目的に応じて資料を効果的に活用して話す。(「話す・聞く能力」)
- 話すための材料を人との交流を通して集める。(「話す・聞く能力」)
- 文章の構成を工夫して分かりやすく書く。(「書く能力」)
- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。(「読む能力」)
- 文脈に即して漢字を正しく書く。(「言語についての知識・理解・技能」)

#### ・正答率が低い項目

- 文章の要旨を捉える。(「読む能力」)
- 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ。(「読む能力」)
- 楷書と行書との違いを理解する。(「言語についての知識・理解・技能」)
- 古典には様々な種類の作品があることを知る。(「言語についての知識・理解・技能」)

### 国語Bの特徴

#### ○全体的な傾向

「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」は、県平均・全国平均より高い。また、「話す・聞く能力」は、県平均よりやや低いが、全国平均より高い。

#### ・正答率が高い項目

- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。(「読む能力」)
- 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する。(「読む能力」)
- 目的に応じて必要な情報を読み取る。(「読む能力」)

・正答率が低い項目

- 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く(「書く能力」)
- 相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す。(「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」)

### **数学A**の特徴

○全体的な傾向

領域別にみると、「数と式」・「図形」・「関数」・「資料の活用」の4領域とも県・全国よりも高い。その中で「資料の活用」の領域では、相対度数を求めることはできているが、範囲などの用語の意味の理解が低い。

観点別にみると、「技能」・「知識・理解」とも県・全国よりも高い。

・正答率が高い項目

- 簡単な一元一次方程式や二元一次方程式を解くことができる。(技能)

・正答率が低い項目

- 範囲の意味を理解している。(知識・理解)

### **数学B**の特徴

○全体的な傾向

領域別にみると、「数と式」・「図形」・「関数」・「資料の活用」の4領域とも県・全国よりも高い。

観点別にみると、「見方・考え方」・「技能」・「知識・理解」とも県・全国よりも高い。その中で問題解決の方法を数学的に説明したり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりする問題では、無回答率が20%を超えており、課題であると考え。

・正答率が高い項目

- 資料から必要な情報を適切に読み取ることができる。(知識・理解)
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。(技能)
- 筋道を立てて考え、証明することができる。(見方・考え方)

・正答率が低い項目

- 事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる。(見方・考え方)

### 3 生徒質問の特徴

・高い値を示した項目

○質問番号(20)「学校の部活動に参加していますか」

「あてはまる」…83.3%(全国66.7%)

○質問番号(42)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

「あてはまる」…54.9%(全国19.1%)

○質問番号(45)「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」

「参加したことがある」…82.5%(全国49.7%)

・低い値を示した項目

○質問番号(6)「自分には、よいところがあると思いますか。」

「当てはまる」…17.5%(全国28.2%)

○質問番号(33)「家で、学校の授業の予習をしていますか。」

「している」…1.7%(全国11.3%)

○質問番号(34)「家で、学校の授業の復習をしていますか。」

「している」…5.0%(全国18.9%)

#### 4 総論

昨年度に比べ、全体的に平均正答率が県や全国に対して上がった。

国語A(基礎)・B(応用)は、今年度は、県・全国平均よりも高くなった。数学A(基礎)数学B(応用)は、今年度は、県・全国平均よりかなり高くなった。

国語については、全体的に平均正答率が上がり、県・全国の平均よりも正答率が高い項目が多かった。昨年度課題であった「目的に応じて資料を効果的に活用して話す・必要な情報を読み取る要旨を捉える」は、全国とほぼ同じまたは高いとなった。しかし、自分の考えを書く問題では、無回答率が高く、授業改善を進めるにあたって、意識して取り組んでいく必要がある。

数学については、昨年度課題であった「関数」領域は、県・全国よりも高い正答率となった。数学的な表現を用いて説明する・解決の方法を説明する問題では、無回答率が高く、授業改善を進めるにあたって、意識して取り組んでいく必要がある。

生活習慣については、「普段(月～金)、1日当たりテレビやビデオ・DVDを見る時間」が、「4時間以上」・「3時間以上4時間未満」の生徒が全国よりも多くなっている。「普段(月～金)、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか」では、全国よりも読書時間が短い傾向が出ている。また、全くしない生徒が40.8%(全国35.6%)もいる。「普段(月～金)、1日当たり携帯電話やスマートフォンを使用する時間」は全国よりも長い傾向が見られる。つまり、読書時間は短く、携帯電話・スマートフォンを使用する時間は長くなっており、改善を要する。

「地域の行事に参加している」という生徒が全国平均の約3倍、「地域のボランティア活動に参加している」生徒は全国平均の約2倍であり、日頃の取り組みの成果であると考えられる。

昨年度の課題であった「土曜日、日曜日の家庭学習の時間」については、本年度も大きな改善が見られなかった。しかしながら、その時間を部活動や地域活動などに有効に使っているのならばよいが、スマホなどの端末に触れているのならば改善を要する。

家庭学習については、全国よりもかなり低い結果となっている。今後については、家庭での時間の活用について、保護者が集う機会を利用して話し合い活動を展開していくなど、生徒・保護者の意識を高めていく必要があると考える。